

2.4 各調査地の調査結果

調査地の概要と結果のまとめを1調査地1ページに整理した。各調査地の結果集約表と主要な確認種の表、林相と林床の写真に掲載した。結果集約表の数値については、2.3.1を参照のこと。表中の青字は資源量に関する数値等でエゾシカの利用で低下する値、赤字は食痕率に関する数字等エゾシカの利用で上昇する値を示している。また、「集約表」では指標の対象となる樹種やサイズについての数値であるため、全ての調査結果を記載している「主要な確認種の表」とは数値が合わないことがある。

2.4.1 根釧西部森林管理署

表-2.4.1の20調査地について記載した。

表-2.4.1 根釧西部森林管理署の調査地一覧

No	エリア	プロット	SPUE 2007	SPUE 累積	地形	林相	林床植生	毎木 区数	稚樹 区数	樹皮剥ぎ		食痕率		
										小径 木	大径 木	下枝	稚樹	ササ
1	C1 尾幌	E01	5.9	4.7	緩斜面	針広混交林	シラネワラビ、ミヤコザサ	1	1	62%	17%	51%	100%	83%
2		E02	5.3	4.7	堆積地	針広混交林	ミヤコザサ	2	2	7%	0%	48%	79%	80%
3		E03	4.2	4.0	緩斜面	針広混交林	ミヤコザサ	1	2	59%	22%	58%	64%	75%
4		E04	5.9	5.1	尾根	広葉樹林(ミズナラ)	ミヤコザサ	2	2	3%	3%	41%	80%	65%
5	C2 標茶	E05	7.7	4.1	尾根	広葉樹林(ミズナラ)	ミヤコザサ	1	2	0%	0%	48%	52%	40%
6		E06	2.7	3.0	緩斜面	広葉樹林(ミズナラ)	ミヤコザサ	1	1	2%	0%	35%	42%	5%
7		E08	1.0	1.5	尾根	広葉樹林(ミズナラ)	ミヤコザサ	1	1	11%	0%	25%	23%	15%
8	C3 弟子屈	N01	2.0	3.9	緩斜面	広葉樹林(ミズナラ)	ミヤコザサ、シダ類	1	2	0%	0%	50%	30%	45%
9		N03	3.8	4.7	緩斜面	針広混交林(トドマツ優占)	オシダ、フッキソウ	1	1	48%	17%	59%	100%	
10		N04	4.6	4.5	緩斜面	針広混交林(河畔林)	クマイザサ	1	1	19%	0%	66%	100%	50%
11	C4 鶴居	W01	1.3	3.9	尾根	広葉樹林(ミズナラ)	ミヤコザサ、稚樹が多い	1	1	0%	0%	14%	34%	0%
12		W02	2.1	4.1	緩斜面	広葉樹林(ハルニレ)	ミヤコザサ、稚樹なし	1	2	20%	5%	77%	71%	30%
13		W04	0.7	6.5	緩斜面	針広混交林	クマイザサ	2	1	6%	8%	0%	100%	20%
14	C5 阿寒	W05	4.3	7.8	斜面中部	針広混交林(トドマツ優占)	ミヤコザサ(一部クマイ)	1	1	28%	0%	72%	83%	55%
15		W06	4.3	7.8	斜面中部	針広混交林	シダ類、ミヤコザサ	1	2	12%	11%	57%	84%	29%
16		W07	2.7	6.0	斜面中部	広葉樹林(ミズナラ)	フッキソウ、スズタケ	1	2	13%	6%	67%		42%
17		W08	3.1	6.9	尾根	針広混交林(トドマツ優占)	スズタケ、トドマツ稚樹	2	2	21%	9%	91%	0%	0%
18	C6 白糠	W09	3.9	11.7	緩斜面	針広混交林	オシダ、ミヤコザサ	1	2	47%	18%	32%	25%	32%
19		W11	5.4	7.5	斜面中部	針広混交林	ミヤコザサ	1	2	30%	8%	16%		15%
20		W12	4.1	7.2	平坦地	針広混交林	フッキソウ、シダ類	1	2	33%	13%	4%	0%	

根釧 E01 の結果概要 地区名：尾幌 1 23 林班い小班 9月13日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		緩斜面	南西	1	1	2007年 5.9	累積 4.8	足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	71 /200 m ²	40.8 m ² /ha	37 /200 m ² 食痕:19/37 51%		42/200 m ²	36/67 54%(16%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	156 /200 m ²	78/78 100%			49	10%・34.8・83%	0.27・0.21(11.5)・0.02	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ダケカンバ	1	2,180		
トドマツ	3	1,661		
カツラ	8	1,649	1	
アオダモ	42	1,011	29	35
ナナカマド	3	379	1	1
全体	71	8,159	37	36

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き本数	食痕あり(本)
アオダモ	53	11	53
ヤマモミジ	13	1	13
シウリザクラ	7	2	7
ダケカンバ	3		3
オニグルミ	2	1	2
全体	79	15	79

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕有無
シラネウラボ	18	0.124	24.0	45.1	○
ミヤコザサ	6	0.039	9.6	34.8	○
ゴンゲンスゲ	15	0.027	16.1	14.7	
オシダ	4	0.021	4.8	45.5	○
ヤマドリゼンマイ	3	0.020	2.3	52.0	○
全体		0.270	61.3		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 E01 は、上尾幌地区南部の林道沿いに位置する針広混交林である。針葉樹はトドマツで、広葉樹はアオダモが多く見られる。林内はシカ道が多く、食痕も目立ち、高利用域と推測される。下枝がある立木はアオダモを中心に 37 本/200m² と比較的多いが、その 51%に食痕が見られる。樹皮剥ぎはアオダモの多くに見られ、新規食痕で 16%と他調査地に比べて多い。

稚樹はアオダモが高密度に生育しているが、全てで食痕が見られ、今後の更新への影響が懸念される。林床はシラネウラボなどのシダ植物が目立つ。ササはミヤコザサで全体被度は 10%と低く、その多くに食痕が見られる。可食種の現存量は 0.02 と小さく、忌避種がその 10 倍以上を占める。忌避種であるフッキソウやツタウルシにも食痕が見られ、全体にエゾシカの影響が強く見られる。

根釧 E02 の結果概要

地区名：尾幌2 28 林班ろ小班 9月17日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		堆積地	なし	2	2	2007年 5.3	累積 4.8	シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	51 /200 m ²	56.4 m ² /ha	16 /200 m ² 食痕:15/31 48%			15/200 m ²	3/64 5%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]
	14 /200 m ²	11/14 79%			24	32%・37.3・80%		0.33・0.19(13.1)・0.01

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ダケカンバ	4	6,839		
イタヤカエデ	6	2,241	2	
ハシドイ	36	1,639	25	1
トドマツ	2	1,369		
ヤチダモ	5	998	1	1
全体	70	14,857	31	3

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
ハシドイ	16	8	14
ノリウツギ	1	1	1
ミズナラ	1	1	1
全体	18	10	16

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
ミヤコザサ	20	0.129	32.4	37.3	○
オシダ	8	0.104	16.0	59.8	
ヤマドリゼンマイ	2	0.051	5.0	105.0	
スゲ属の一種	15	0.027	5.7	39.2	
サラシナショウマ	3	0.009	1.7	55.0	
全体		0.330	59.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 E02 は、上尾幌地区南部の林道沿いに位置する針広混交林である。川沿いの河畔林で、広葉樹はダケカンバ、イタヤカエデ、ハシドイなどが見られ、針葉樹はトドマツ、イチイが見られる。林内はシカ道が見られ、食痕も目立つ。下枝がある立木はハシドイを中心に 31 本/200m² で、その 48%に食痕が見られる。樹皮剥ぎはハシドイやヤチダモなどの 3 本で見られ、新規食痕はない。

稚樹はハシドイなど 14 本/200m² で、そのほとんどに食痕が見られる。林床はミヤコザサが 30%以上をしめて優占し、食痕率は 80%である。その他には、オシダやヤマドリゼンマイなどのシダ植物が目立つ。可食種の現存量は 0.01 と小さく、忌避種がその 10 倍以上を占める。枝、稚樹、ササの食痕率が高く、エゾシカの影響が強く見られる。

根釧 E03 の結果概要 地区名：尾幌 3 55 林班り小班 9月16日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	緩斜面	北	1	2	2007年 4.2	累積 4.0	糞・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	90 /200 m ²	80.0 m ² /ha	38 /200 m ² 食痕: 22/38 58%		46 /200 m ²	43/86 50% (5%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	14 /200 m ²	9/14 64%		20	28%・32.9・75%	0.31・0.20(78.1)・0.00	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の () 内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
トドマツ	3	5,164		
ダケカンバ	1	3,151		
アオダモ	57	2,588	26	41
ナナカマド	7	1,909	2	
オオバボダイジュ	1	1,040		
全体	90	16,009	38	43

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
シウリザクラ	8		8
ハシドイ	6		6
アオダモ	1		1
全体	15		15

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
オシダ	11	0.108	19.7	49.2	
ミヤコザサ	20	0.098	28.0	32.9	○
シラネワラビ	12	0.088	16.8	38.9	○
フッキソウ	20	0.008	4.4	17.8	
ホザキシモツケ	5	0.002	0.4	48.0	
全体		0.305	63.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 E03 は、尾幌地区中部の林道沿いに位置する針広混交林である。針葉樹はトドマツで、広葉樹はアオダモが多く見られる。林内はシカ道が多く、食痕も目立つ。下枝がある立木はアオダモを中心に 38 本/200m² と比較的多いが、その 58% に食痕が見られる。樹皮剥ぎはアオダモの多くに見られ、50% ときわめて高い。

稚樹はシウリザクラやハシドイなど 14 本/200m² と低密度で、全てで食痕が見られ、今後の更新への影響が懸念される。林床はオシダやシラネワラビなどのシダ植物が目立つ。ササはミヤコザサで全体被度は 28% と低く、その多くに食痕が見られる。可食種の現存量は 0.01 未満と小さく、忌避種が 0.2 と多い。枝、樹皮、稚樹、ササの食痕率が高く、エゾシカの影響が強く見られる。

根釧 E04 の結果概要 地区名：雷別 290 林班す 1 小班 9 月 15 日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPU 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)	尾根	なし	2	2	2007年 5.9	累積 4.7	なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	31 /200 m ²	52.4 m ² /ha	11 /200 m ² 食痕:9/22 41%		9/200 m ²	2/62 3%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	5 /200 m ²	4/5 80%		11	65%・80.3・65%	0.53・0.00(11.3)・0.00	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ミズナラ	27	14,251	5	
キハダ	1	1,927		
ケヤマハンノキ	2	1,733	1	
ハルニレ	5	1,569	3	1
ヤチダモ	6	683	1	1
全体	62	20,955	22	2

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
イタヤカエデ	3	1	3
ミズナラ	3		3
全体	6	1	6

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
ミヤコザサ	20	0.527	65.0	80.3	○
フッキソウ	12	0.003	1.6	15.2	
エゾトリカブト	1	0.000	0.1	75.0	
アキカラマツ	1	0.000	0.1	30.0	
ヤマブドウ	1	0.000	0.1	15.0	
全体		0.530	65.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 E04 は、雷別地区中部の林道沿いに位置する広葉樹林である。尾根沿いの平坦地で、ミズナラが多く見られる。下枝がある立木はミズナラを中心に 11 本/200m² と少なく、その 41%に食痕が見られる。樹皮剥ぎはハルニレなどに見られるが、新規食痕は見られない。

稚樹はイタヤカエデとミズナラの 5 本/200m² と低密度で、全てで食痕が見られる。林床はミヤコザサが 65%を占め、他の植物は 2%程度で少ない。ササの食痕率は 65%と高い。ササを除いた可食種と、忌避種の現存量はともに 0.01 未満である。林床にササが密生しているため、潜在的に稚樹密度が低い場所と思われるが、枝、稚樹、ササの食痕率は高く、エゾシカの影響は比較的強く見られる。

根釧 E05 の結果概要 地区名：PF1 234 林班い小班 9月15日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUJE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)		尾根	南	1	2	2007年 7.7	累積 4.0	シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	122 /200 m ²	48.4 m ² /ha	56 /200 m ² 食痕: 27/56 48%			37 /200 m ²	0/102 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	63 /200 m ²	33/63 52%			26	56%・41.4・40%	0.25・0.00(0.0)・0.01	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ミズナラ	82	5,784	36	
シラカバ	15	1,437	8	
ケヤマハンノキ	3	1,069	2	
トドマツ	5	538		
エゾヤマザクラ	1	330		
全体	122	9,673	56	

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
ミズナラ	62	14	36
イヌエンジュ	3	1	
ノリウツギ	3		2
ツリバナ	1	1	
ハルニレ	1		1
全体	70	16	39

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
ミヤコザサ	20	0.235	56.0	41.4	○
ミズナラ	6	0.006	1.8	37.3	
イヌエンジュ	1	0.002	0.3	83.0	
ツリバナ	8	0.001	0.3	8.9	
コクワ	1	0.001	0.1	100.0	
全体		0.246	56.3		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 E05 は、標茶のパイロットフォレスト中部の林道沿いに位置する広葉樹林である。尾根沿いでミズナラやシラカバが多く見られる。林内はシカ道が見られ、食痕も目立つ。下枝がある立木はミズナラを中心に 56 本/200m² と比較的多く、その 48% に食痕が見られる。樹皮剥ぎは見られない。

稚樹はミズナラなど 63 本/200m² と密度が高く、その 52% で食痕が見られる。林床はミヤコザサが 56% を占め、食痕率は 40% である。その他の植物は 3% 程度で少ない。ササを除いた可食種と、忌避種の現存量はともに 0.01 未満と少ない。林床にササが密生しているものの、稚樹密度が高いのは、ミズナラの母幹が枯れた後に発生した萌芽由来の稚樹が多いためである。枝、稚樹、ササの食痕率は高く、エゾシカの影響は強く見られる。

根釧 E06 の結果概要 地区名：PF2 234 林班か小班 9月19日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUJE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)		緩斜面	西	1	1	2007年 2.7	累積 3.0	足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	63 /200 m ²	16.1 m ² /ha	43 /200 m ² 食痕:15/43 35%			34 /200 m ²	1/60 2%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	66 /200 m ²	14/33 42%			11	55%・52.4・5%	0.31・0.00(0.0)・0.03	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ミズナラ	18	1,766	10	
ダケカンバ	3	719		
イヌエンジュ	4	360		
ハシドイ	37	354	32	1
ハルニレ	1	13	1	
全体	63	3,213	43	1

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
ハシドイ	30	2	23
イヌエンジュ	2		2
ミズナラ	1		1
全体	33	2	26

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
ミヤコザサ	20	0.287	55.0	52.4	○
ホザキシモツケ	10	0.023	2.8	60.6	
アキカラマツ	9	0.002	0.4	37.1	
チョウセンゴミシ	8	0.000	0.2	14.4	
ワラビ	1	0.000	0.1	68.0	
全体		0.313	57.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 E06 は、標茶のパイロットフォレスト中心部の林道沿いに位置する広葉樹林である。沢沿いの緩斜面で、ミズナラやハシドイが多く見られる。林内はシカ道が見られる。下枝がある立木はハシドイを中心に 43 本/200m² と比較的多く、その 35% に食痕が見られる。樹皮剥ぎはハシドイの 1 本のみで少ない。

稚樹は 66 本/200m² と密度が高く、ハシドイが多い。その 42% で食痕が見られる。林床はミヤコザサが 55% を占め、食痕率は 5% である。その他の植物は 3% 程度で少ない。ササを除いた可食種の現存量は 0.03 で、忌避種は見られない。枝、稚樹、ササの食痕率から見て、エゾシカの影響は出ているものの、他の調査区に比べると影響の低い場所の一つと言える。

根釧 E08 の結果概要 地区名：標茶 301 林班と小班 9月18日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)	尾根	南西	1	1	2007年 1.0	累積 1.1	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	41 /200 m ²	32.8 m ² /ha	28 /200 m ² 食痕: 7/28 25%		24/200 m ²	3/41 7%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]
	44 /200 m ²	5/22 23%					

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ミズナラ	24	3,115	19	3
ヤチダモ	1	1,560		
サワシバ	12	1,078	7	
ハルニレ	1	548		
オニグルミ	1	263		
全体	41	6,568	28	3

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
サワシバ	10	1	9
ハシドイ	9	1	8
イヌエンジュ	3		2
全体	22	2	19

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
ミヤコザサ	20	0.277	52.0	52.8	○
サラシナショウマ	10	0.002	0.8	21.1	
ハシドイ	2	0.001	0.3	35.0	○
フッキソウ	9	0.001	0.5	16.7	
サワシバ	7	0.000	0.1	20.7	○
全体		0.283	52.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 E08 は、標茶地区北部の市街地に近い道路際に位置する広葉樹林である。尾根沿いの緩斜面で、ミズナラやサワシバが多く見られる。林内にシカ道は見られない。下枝がある立木はミズナラを中心に 28 本/200m² で、その 15% に食痕が見られる。樹皮剥ぎはミズナラの 3 本のみで新規食痕はない。

稚樹はサワシバやハシドイなど 44 本/200m² で、その 23% に食痕が見られる。林床はミヤコザサが 52% を占め、食痕率は 15% である。その他の植物は 2% 程度で少ない。ササを除いた可食種の現存量と、忌避種の現存量はいずれも 0.01 未満と少ない。枝、稚樹、ササの食痕率から見て、エゾシカの影響は出ているものの、他の調査区に比べると影響の低い場所の一つと言える。

根釧 NO1 の結果概要 地区名：川湯 4280 林班ほ小班 9月17日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUJE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)	緩斜面	北東	1	2	2007年 2.0	累積 4.1	足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	43 /200 m ²	41.7 m ² /ha	24 /200 m ² 食痕:12/24 50%		18/200 m ²	0/40 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]
	10 /200 m ²	3/10 30%			14	40%・47.3・45%	0.37・0.17(7.7)・0.02

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ミズナラ	11	4,664	6	
ダケカンバ	3	2,319	1	
アズキナシ	3	554	1	
ミヤマザクラ	8	273	4	
ヤチダモ	1	270		
全体	43	8,342	24	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
イヌエンジュ	5		
シウリザクラ	3	1	2
イタヤカエデ	1		
ミズナラ	1		1
全体	10	1	3

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
ミヤコザサ	20	0.184	39.8	47.3	○
ヤマドリゼンマイ	9	0.125	17.0	65.9	○
ヘビノネゴザ	9	0.038	9.1	34.2	
ホザキシモツケ	7	0.021	2.8	61.7	
フッキソウ	13	0.005	2.0	20.4	
全体		0.375	67.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区N01 は、川湯地区の道道 52 号線沿いに位置する広葉樹林である。緩斜面でミズナラが優占する。林内はシカ道や足跡が見られる。下枝がある立木はミズナラを中心に 24 本と比較的少なく、その 50%に食痕が見られる。樹皮剥ぎは見られない。

稚樹はイヌエンジュなど 10 本/200m²と低く、その 30%に食痕が見られる。林床はミヤコザサが約 40%を占め、食痕率は 45%である。その他の植物では、ヤマドリゼンマイやヘビノネゴザなどシダ植物が目立つ。ササを除いた可食種の現存量は 0.02 で、忌避種はその約 8 倍を占める。枝、稚樹、ササの食痕率が比較的高く、エゾシカの被食による影響が見られる。

根釧 NO3 の結果概要

地区名：弟子屈 1 4286 林班ろ小班 9月17日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(トドマツ優占)	緩斜面	北東	1	1	2007年 3.8	累積 4.8	糞・足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	54 /200 m ²	27.5 m ² /ha	27 /200 m ² 食痕:16/27 59%		18/200 m ²	22/37 59%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]
	18 /200 m ²	9/9 100%			26	0%・-・0%	0.23・0.23(202.5)・0.00

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
トドマツ	14	3,327	10	
ダケカンバ	3	573	1	
ハウチワカエデ	5	439	4	
アオダモ	16	373	11	14
キタコブシ	5	295	5	3
全体	54	5,509	37	22

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
トドマツ	15	1	
アオダモ	9		9

全体	24	1	9
----	----	---	---

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
ナライシダ	17	0.066	17.1	33.3	
フッキソウ	19	0.065	23.6	25.2	
オシダ	9	0.056	11.1	31.6	○
ゴンゲンスゲ	17	0.015	12.9	10.6	
ミミコウモリ	8	0.013	2.7	33.5	
全体		0.227	60.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区N03 は、弟子屈地区北西部の林道沿いに位置する針広混交林である。針葉樹はトドマツ、広葉樹はアオダモなどが多く見られる。林内はシカ道や糞も多く見られる。下枝がある立木はアオダモを中心に 27 本/200m² で、その 59%に食痕が見られる。樹皮剥ぎはほとんどのアオダモの個体に見られるが、新規食痕は確認されていない。

稚樹は広葉樹ではアオダモのみで、9 本/200m² と低密度である。その全てに食痕が見られる。林床は、ナライシダ、フッキソウ、オシダなどが優占し、ササは見られない。忌避種が豊富で枝や稚樹や食痕率が比較的高く、エゾシカの被食による影響が比較的強く見られる。

根釧 NO4 の結果概要

地区名：弟子屈 2 4097 林班よ小班 9月16日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(河畔林)	緩斜面	北西	1	1	2007年 4.6	累積 4.3	足跡
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	62 /200 m ²	43.7 m ² /ha	35 /200 m ² 食痕: 23/35 66%		20 /200 m ²	8/49 16% (0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	40 /200 m ²	20/20 100%		14	54%・60.5・50%	0.38・0.04(8.5)・0.00	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ハルニレ	8	2,666	4	
トドマツ	13	2,476	12	
オヒョウ	11	2,233	8	2
ハリギリ	2	640		
ハシドイ	22	514	19	5
全体	62	8,745	47	8

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き本数	食痕あり(本)
ハシドイ	20	3	20
トドマツ	1		

全体	21	3	20
----	----	---	----

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕有無
クマイザサ	20	0.341	53.5	60.5	○
オシダ	5	0.035	5.5	53.0	○
ハシドイ	2	0.004	0.6	62.5	○
フッキソウ	16	0.003	1.4	18.8	
エゾフユノハナワラビ	1	0.000	0.1	20.0	
全体		0.384	59.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区N04 は、弟子屈地区北西部の林道沿いに位置する針広混交林である。沢沿いの河畔林で、針葉樹はトドマツ、広葉樹はハルニレ、オヒョウが多く見られる。林内にはシカの足跡が見られる。下枝がある立木はアオダモを中心に 35 本/200m² と比較的多いが、その 66%に食痕が見られる。樹皮剥ぎはオヒョウやハシドイに見られるが、新規食痕は確認されていない。

稚樹は広葉樹ではハシドイのみで、20 本/200m² で、その全てに食痕が見られる。林床はミヤコザサが約 50%以上を占め、食痕率は 50%である。その他では、オシダなどが目立つ。ササを除いた可食種の現存量は 0.01 未満でほとんどなく、忌避種はその 8 倍以上を占める。枝、稚樹、ササの食痕率が比較的高く、エゾシカの被食による影響が見られる。

根釧 W01 の結果概要 地区名：温根内 83 林班い小班 8 月 31 日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)	尾根	南	1	1	2007年 1.3	累積 3.9	足跡
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	65 /200 m ²	50.8 m ² /ha	35 /200 m ² 食痕: 5/35 14%		29/200 m ²	0/62 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床 種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	118 /200 m ²	20/59 34%			33	60%・46.9・0%	0.47・0.09(0.9)・0.10

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ミズナラ	41	9,663	20	
シラカバ	3	258		
ミヤマザクラ	9	160	5	
イヌエンジュ	9	66	8	
イタヤカエデ	3	19	3	
全体	65	10,166	36	

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
イヌエンジュ	37	2	8
ミズナラ	19	3	17
ミヤマザクラ	3	2	1
全体	59	7	26

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
ミヤコザサ	20	0.278	60.0	46.9	
ヤマドリゼンマイ	8	0.081	13.5	55.0	
イヌエンジュ	10	0.071	4.6	143.1	○
イワノガリヤス	13	0.021	3.7	53.7	
ミズナラ	11	0.007	1.2	41.7	○
全体		0.473	79.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 W01 は、温根内地区西部の林道沿いに位置するミズナラ林に設置している。一部(基点側)にカラマツが混じるほかは、広葉樹のミズナラが圧倒的に多い。周辺の林縁部にはシカの足跡や食痕が目立つことから、生息密度は高いと考えられる。下枝がある立木はミズナラを中心に 35 本と比較的多く、その 14%に食痕が見られる。樹皮剥ぎは全く見られなかった。

稚樹はイヌエンジュが最も多く、次いでミズナラが多く生育している。食痕率は前者が約 2 割に対し、ミズナラで約 9 割と高く、エゾシカの嗜好性の違いを反映していると考えられる。林床はミヤコザサが優占するが、周辺林分に比べて明らかに被度は低く、ヤマドリゼンマイなどのシダ植物や多様な林床植物が生育する。ササには食痕が見られなかった。可食種の現存量は 0.10、忌避種は 0.09 で大きな差はない。ヤマドリゼンマイは忌避種であるが、エゾシカの影響というよりは湿潤な土壌条件を反映したものと思われる。

根釧 W02 の結果概要 地区名：上久著呂 4476 林班ち小班 9月18日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ハルニレ)	緩斜面	南西	1	2	2007年 2.1	累積 4.2	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	47 /200 m ²	42.6 m ² /ha	31 /200 m ² 食痕: 24/31 77%		15/200 m ²	6/46 13% (0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	14 /200 m ²	10/14 71%		15	54%・92.9・30%	0.59・0.03(0.7)・0.05	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ハルニレ	6	2,578	6	
ヤチダモ	4	1,767		
ハシドイ	29	1,090	22	6
キハダ	3	963		
ダケカンバ	1	828		
全体	47	8,522	31	6

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き本数	食痕あり(本)
ハシドイ	14		10

全体	14	10
----	----	----

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕有無
ミヤコザサ	20	0.514	54.0	92.9	○
ヨブスマソウ	2	0.023	1.0	234.0	
アキカラマツ	13	0.017	2.4	70.3	
ホザキシモツケ	6	0.016	2.1	64.8	
アキタブキ	1	0.012	1.5	80.0	○
全体		0.591	58.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 W02 は、上久著路地区北部の林道と小河川の間にある帯状のハルニレ林に設置している。本数ではハシドイがもっとも多いが、林冠にはハルニレが優占する。下枝がある立木はハシドイを中心に 31 本あり、その 77%に食痕が見られる。樹皮剥ぎもハシドイに 13%と多く見られるが、新規食痕はない。

稚樹はハシドイがやや多く生育しているが、それ以外の樹種は調査区内に出現しない。また、その多くに食痕が見られる。林床はミヤコザサが優占し、平均高も 90cm を超す。そのほかにはヨブスマソウやアキカラマツなどの高茎草本や低木のホザキシモツケがまばらに生育する。ササの食痕は 30%に達する。可食種の現存量は 0.05、忌避種は 0.03 で大きな差はない。

根釧 W04 の結果概要 地区名：阿寒湖畔 2100 林班ぬ小班 9月16日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	緩斜面	北	2	1	2007年 0.7	累積 8.5	足跡
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	27 /200 m ²	39.3 m ² /ha	5 /200 m ² 食痕:6/10 60%		2/200 m ²	4/20 20%(5%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	136 /200 m ²	68/68 100%				21	50%・55.7・20%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
トドマツ	27	6,913	18	
ナナカマド	11	2,855	6	3
シナノキ	2	1,520		
アカエゾマツ	5	1,453	3	
ハリギリ	1	1,376		
全体	54	15,703	32	4

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き本数	食痕あり(本)
シウリザクラ	67	10	67
トドマツ	1		
ナナカマド	1		1
全体	69	10	68

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕有無
クマイザサ	20	0.289	50.0	55.7	○
シウリザクラ	16	0.016	1.7	39.3	○
フッキソウ	11	0.005	1.8	22.9	
スゲsp.	7	0.002	1.3	12.4	
ツルアジサイ	4	0.001	0.6	11.3	
全体		0.314	52.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 W04 は、阿寒湖畔地区南部の林道沿いの針広混交林に設置している。トドマツが優占し、ナナカマドやシナノキなどの広葉樹が混生する。林内にはシカの糞などが見られ、食痕も目立ち、高利用域と推測される。下枝がある立木は 32 本と比較的多いが、過半数がトドマツで、ナナカマドを中心に可食種の 60%に食痕が見られる。樹皮剥ぎもナナカマドなどに見られ、新規食痕は 5% である。

稚樹はシウリザクラが高密度に生育しているが、これらのほとんどは根萌芽によるものであろう。調査した 67 本全てで食痕が見られ、亜高木層や低木層の発達を阻害していると考えられる。林床はクマイザサが優占するが、エゾシカの累積的な被食圧を受けて被度・高さとも低くなっている。可食種の現存量は 0.02、忌避種は 0.01 でもともに少ない。全体にエゾシカの影響が強く見られる。

根釧 W05 の結果概要 地区名：阿寒川 2140 林班ね小班 9月15日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林 (トドマツ優占)	斜面中部	北	1	1	2007年 4.3	累積 9.1	糞・足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	48 /200 m ²	32.1 m ² /ha	18 /200 m ² 食痕: 13/18 72%		10/200 m ²	8/34 24% (0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床 種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]
	12 /200 m ²	5/6 83%			37	32%・32.7・55%	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の () 内は忌避種 / 可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
トドマツ	12	2,585	5	
エゾマツ	2	1,634		
ヤマモミジ	22	1,540	9	3
ハウチワカエデ	8	362	6	5
サワシバ	1	111	1	
全体	48	6,411	23	8

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き本数	食痕あり (本)
トドマツ	13		
キタコブシ	6		5
エゾマツ	2	1	
全体	21	1	5

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕有無
ミヤコザサ	16	0.108	31.5	32.7	○
クマイザサ	4	0.061	11.5	53.3	○
オシダ	9	0.026	5.7	26.1	○
フッキソウ	13	0.009	3.9	19.2	
ゴンゲンスゲ	16	0.009	7.8	9.9	
全体		0.233	65.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 W05 は、阿寒川地区の林道沿いに位置する針広混交林に設置している。トドマツが優占し、亜高木層や低木層に広葉樹のヤマモミジ、ハウチワカエデが多く見られる。林内にはシカ道があり、糞や食痕も目立ち、高利用域になっていると推測される。可食種のうち下枝がある立木は 18 本あり、その 72% に食痕が見られる。樹皮剥ぎはハウチワカエデやヤマモミジに多く見られるが、新規のものはない。

稚樹でもトドマツが優占している。次いで多いのがキタコブシで、その多くに食痕が見られる。林床はミヤコザサとクマイザサが優占するが、エゾシカの累積的な被食圧を受けて被度・高さとも低くなっている。可食種、忌避種とも現存量は少ないが、比率では後者が 6 倍となる。全体にエゾシカの影響が強く見られる。

根釧 W06 の結果概要 地区名：飽別 2069 林班ち小班 9月15日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	斜面中部	東	1	2	2007年 4.3	累積 9.1	足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	44 /200 m ²	39.2 m ² /ha	28 /200 m ² 食痕:16/28 57%		15 /200 m ²	5 /41 12%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床 種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	19 /200 m ²	16 /19 84%			43	5%・37.1・29%	0.34・0.30(16.9)・0.02

※稚樹は樹高30cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
トドマツ	2	2,884		
ホオノキ	6	1,215	3	
エゾマツ	1	1,146		
シナノキ	9	1,103	2	1
シウリザクラ	1	319		
全体	44	7,834	28	5

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
アオダモ	8	1	7
キタコブシ	8		8
トドマツ	8		
エゾマツ	2		
シナノキ	2		2
全体	33	2	20

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
オシダ	17	0.146	25.5	52.9	○
シラネワラビ	17	0.079	18.0	36.8	
フッキソウ	20	0.045	17.8	24.7	
ミヤコザサ	7	0.020	4.6	37.1	○
ジュウモンジシダ	7	0.013	4.6	26.7	
全体		0.336	69.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 W06 は、飽別地区の林道沿いに位置する針広混交林の疎林内に設置している。トドマツとエゾマツに加え、シナノキやホオノキが混生する。林内にはシカ道があり、食痕も目立ち、高利用域になっていると推測される。下枝がある立木は 28 本あり、その 57%に食痕が見られる。樹皮剥ぎは 5 本見られるが、新規のものはない。

稚樹ではアオダモ、キタコブシ、トドマツなどが生育しているが、前二種では多くの食痕が見られ、今後の更新への影響が懸念される。林床はオシダやシラネワラビなどのシダ植物が目立つ。ササはミヤコザサで全体被度は 4.6%と低く、食痕が見られる。可食種の現存量は 0.02 と小さく、忌避種がその 10 倍以上を占める。全体にエゾシカの影響が強く見られる。

根釧 W07 の結果概要 地区名：舌辛川 2053 林班お小班 8月31日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)	斜面中部	西	1	2	2007年 2.7	累積 6.2	シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	64 /200 m ²	33.0 m ² /ha	30 /200 m ² 食痕:20/30 67%		28/200 m ²	7/58 12%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	0 /200 m ²	0/0		54	16%・50.8・42%	0.22・0.12(15.0)・0.01	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ミズナラ	6	3,491	2	1
カツラ	4	518	2	
キタコブシ	2	411	1	
ウダイカンバ	2	393		
キハダ	1	390		
全体	64	6,596	30	8

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き本数	食痕あり(本)
サワシバ	7	7	7
ヤチダモ	4	4	
アオダモ	2	2	1
ヤマモミジ	2	2	1
エゾマツ	1		
全体	18	16	10

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕有無
スズタケ	12	0.094	15.8	50.8	○
フッキソウ	18	0.058	22.9	20.7	
サップロスゲ	17	0.030	11.9	23.6	○
ゴンゲンスゲ	14	0.011	7.0	13.0	
エゾマツ	1	0.010	1.3	80.0	
全体		0.220	60.3		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 W07 は、舌辛地区のボン舌辛川沿いの広葉樹林に設置している。本数、材積ともミズナラが優占する。林内にはシカ道があり、食痕も目立ち、高利用域になっていると推測される。下枝がある立木は 30 本あり、その 67%に食痕が見られる。樹皮剥ぎは 12%の立木に見られるが、新規はない。

稚樹ではサワシバが多いが、全てで食痕が見られ、亜高木層や低木層の発達が阻害されていることが懸念される。林床にはスズタケが優占するが、エゾシカの累積的な被食圧を受けて被度・高さとも低くなっている。可食種の現存量は 0.01 と小さく、忌避種がその 10 倍以上を占める。忌避種であるフッキソウが多く見られ、全体にエゾシカの影響が強く見られる。

根釧 W08 の結果概要 地区名：雄別 2004 林班わ小班 8月31日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林 (トドマツ優占)	尾根	南東	2	2	2007年 3.1	累積 6.5	糞・足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	42 /200 m ²	58.0 m ² /ha	12 /200 m ² 食痕: 21/23 91%		7 /200 m ²	12 /47 26% (13%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	
	4 /200 m ²	0 /4 0%			44	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
					2%・15.6・0%		
					0.42・0.40(24.5)・0.02		

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の ()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
トドマツ	35	15,687		
ハリギリ	1	1,987		
アオダモ	16	1,934	13	12
ハウチワカエデ	25	1,474	10	
ダケカンバ	1	968		
全体	83	23,181	23	12

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
トドマツ	158		
ナナカマド	3		
ハリギリ	1		

全体 162

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕有無
トドマツ	18	0.192	24.0	57.3	
ハクサンシャクナク	13	0.104	12.7	53.2	
シラネワラビ	16	0.067	19.0	29.3	
ミミコウモリ	15	0.014	4.1	27.0	
シノブカグマ	8	0.013	3.6	26.1	
全体		0.422	62.9		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 W08 は、雄別地区の林道近くの尾根沿いにある針広混交林に設定している。トドマツが優占し、亜高木層や低木層に広葉樹のアオダモやハウチワカエデが多く見られる。林内には明瞭なシカ道があり、新旧の糞や食痕も目立ち、越冬地になっていると推測される。下枝がある立木はアオダモを中心に 23 本あるが、その 91%に食痕が見られる。樹皮剥ぎはアオダモの多くに見られ、新規食痕でも 13%に達する。

稚樹はトドマツが高密度に生育しているが、広葉樹はごくわずかである。食痕はないが、すでに高い被食圧を受けた後の姿と考えられ、今後の更新への影響が懸念される。林床はもともとスズタケが優占していたのだがほぼ壊滅状態で、トドマツ、シラネワラビなどの忌避種が目立つ。可食種の現存量は 0.02 と小さく、忌避種がその 20 倍以上を占める。全体にエゾシカの影響が強い。

根釧 W09 の結果概要 地区名：庶路ダム 1169 林班る小班 9月14日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUJE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	緩斜面	南東	1	2	2007年 3.9	累積 11.9	シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	28 /200 m ²	57.8 m ² /ha	19 /200 m ² 食痕:6/19 32%		11/200 m ²	10/23 43%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	4 /200 m ²	1/4 25%		33	31%・37.3・32%	0.34・0.21(17.3)・0.01	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ハルニレ	3	4,876		
トドマツ	3	3,522	1	
エゾマツ	2	1,429	2	
ヤマモミジ	1	594		
ハシドイ	11	476	11	5
全体	28	11,553	22	10

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
ヤマモミジ	8	1	1
トドマツ	6		
エゾマツ	4		
イタヤカエデ	2		2
ハシドイ	1		
全体	21	1	3

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
オシダ	19	0.182	37.1	45.4	○
ミヤコザサ	19	0.122	30.5	37.3	○
フッキソウ	17	0.020	8.7	19.4	
サラシナショウマ	4	0.006	0.6	46.3	
ジュウモンジシダ	3	0.006	1.6	31.0	
全体		0.343	74.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 W09 は、庶路ダム地区の林道沿いの針広混交林に設置している。針葉樹としてはトドマツ、エゾマツの 2 種が出現するが両種ともそれほど多くなく、ハルニレなどの広葉樹が多く見られる。林内にはシカ道があり、食痕も目立ち、高利用域になっていると推測される。可食種のうち下枝がある立木はヤマモミジなど 19 本あり、その 32%に食痕が見られる。樹皮剥ぎはハシドイなどで見られ、全立木の 43%と高いが、新規はない。

稚樹はヤマモミジなどが見られるが、高さ 30cm を超えるものは少ない。新しい食痕率はそれほど高くないが、累積的なエゾシカの被食圧を受けており、今後の更新への影響が懸念される。林床はオシダ、フッキソウなどの忌避種が目立つ。ササはミヤコザサで、食痕が見られる。可食種の現存量は 0.01 と小さく、忌避種がその 10 倍以上を占める。全体にエゾシカの影響が強く見られる。

根釧 W11 の結果概要 地区名：新縫別 1025 林班い小班 9月14日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	斜面中部	西	1	2	2007年 5.4	累積 7.3	足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	43 /200 m ²	23.4 m ² /ha	31 /200 m ² 食痕:5/31 16%		8/200 m ²	10/41 24%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	0 /200 m ²	0/0				44	29%・36.6・15%

※稚樹は樹高30cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥ぎ(本)
サワシバ	26	1,539	23	6
トドマツ	2	1,081	2	
ヤマモミジ	4	828	1	
アサダ	1	514		
エゾヤマザクラ	1	261		
全体	43	4,675	33	10

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	No付き本数	食痕あり(本)
サワシバ	5		
トドマツ	4	1	
ハシドイ	4		
イタヤカエデ	1		
ミズナラ	1	1	1
全体	16	2	1

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(m ³ /m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕有無
ミヤコザサ	20	0.111	28.8	36.6	○
フッキソウ	16	0.018	9.7	17.7	
オシダ	3	0.009	2.6	27.3	○
ムカゴイラクサ	7	0.006	2.8	23.1	
コンロンソウ	15	0.004	1.6	24.1	
全体		0.165	47.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 W11 は、新縫別地区の林道沿いの針広混交林に設定している。針葉樹はトドマツで、広葉樹はサワシバが多く見られる。林内にはシカ道があり、食痕も目立ち、シカの高利用域になっていると推測される。下枝がある立木はサワシバを中心に 31 本と比較的多く、その 16%に食痕が見られる。樹皮剥ぎもサワシバに見られるが、新規のものはない。

30cm 未満の稚樹は多少あるが、30cm を超える稚樹はない。累積的なエゾシカの被食圧を受けた結果と考えられ、今後の更新への影響が懸念される。林床にはミヤコザサが優占するが、被度・高さとも低く、食痕が見られる。可食種の現存量は 0.01 と小さく、忌避種がその 3 倍以上を占める。忌避種であるオシダにも食痕が見られ、全体にエゾシカの影響が強くと見られる。

根釧 W12 の結果概要 地区名: 上茶路 1078 林班わ小班 9月13日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	平坦地	なし	1	2	2007年 4.1	累積 7.8	足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	33 /200 m ²	38.3 m ² /ha	23 /200 m ² 食痕: 1/23 4%		5/200 m ²	8/28 29%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	2 /200 m ²	0/2 0%		28	---	0.38・0.34(9.7)・0.04	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
イタヤカエデ	5	3,227	1	1
エゾマツ	2	2,360	2	
ハシドイ	19	1,272	15	6
ハルニレ	4	583	4	1
エゾクロウメモドキ	3	228	3	
全体	33	7,669	25	8

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き本数	食痕あり(本)
エゾマツ	11		
イタヤカエデ	1	1	
サワシバ	1		
ハシドイ	1		1
ミズナラ	1		
全体	15	1	1

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕有無
クサソテツ	11	0.141	23.0	57.3	○
フッキソウ	19	0.105	37.0	27.7	
エゾメシダ	10	0.075	13.1	53.9	
タツノヒゲ	12	0.024	6.2	33.5	
コンロンソウ	16	0.010	3.0	25.9	
全体		0.376	72.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 W12 は、上茶路地区の林道沿いの針広混交林に設定している。針葉樹としてはエゾマツが出現するが、イタヤカエデやハシドイなど広葉樹のほうが多く見られる。林内にはシカ道があり、食痕も目立ち、シカの高利用域になっていると推測される。可食種のうち下枝がある立木はハシドイを中心に 23 本あり、その 4%に食痕が見られる。樹皮剥ぎもハシドイなどに見られるが、新規のものはない。

稚樹はエゾマツが多く、広葉樹はわずかだった。累積的なエゾシカの被食圧を受けた結果と考えられ、今後の更新への影響が懸念される。林床はクサソテツ、フッキソウなどの忌避種が目立つ。ササは見られない。可食種の現存量は 0.04 と小さく、忌避種がその 10 倍近くを占める。全体にエゾシカの影響が強く見られる。